第 4 回 APNG Camp 報告

牧 兼充 (慶應義塾大学 / JPNIC NGTF)

1. APNG Camp 運営に関する達成点

APNG Camp の役割は、「インターネットにおける新たな issue を提供する場(tutorial)」と「AP のコンテクストにおいて活動を行う場(WG)」の二つの側面がある。

tutorial としては、今回は、camp 全体を culture track と technology track に分割し、technology track との運営を全面的に NGTF が担い、また culture track についても Camp 全体におけるその役割について提案を行った。これは、過去の camp においては、インターネットとは直接関係のない、もしくは issue oriented ではないセッションが目立ち、camp 自体の effectiveness が疑問視されていたことを改善するためである。この結果、tutorial については、今後インターネットを担う若手人材が新たな知見を得る場としては一定の役割を果たすことが可能となった。

WG としては、今までは「feminism」、「youth culture」などインターネットと直接関係のなく、issue oriented ではないため具体的な活動の伴わないものが主流であった。今回そういった WG はすべて廃止し、新たにインターネットに関連する issue を扱う WG として以下の 3 つを設立した。

(1)Network Research (Chair:Hongbo Shi)

(2)Internet Development (Chair: Ching Chiao)

(3)Internet Business and Venture Start-ups (Chair:Kanetaka Maki)

これにより、WG の具体的な活動を進めるにあたっての一定の条件が整った。

2. New Technology Potentiality on the Internet セッションコーディネーション

このセッションのコーディネーションを引き受けるにあたり、effective なセッションになるように内容を検討したが、Camp 自体が扱う領域が不明瞭なため、参加者の興味分野が分からないまま、テーマを設定するのは困難であると判断し、Future of APNG camp discuss とテーマを変えて運営することにした。内容としては、New Technology に限らず、参加者個人がインターネットに関連するどういうテーマに興味を持っているかをアンケートとして記入してもらい、似た興味のメンバーをクラスター化し、今後の具体的な活動として何ができるかの議論の場を作った。アンケートの結果、3 分の 1 くらいの参加者が「Internet Culture」と返答したことは、camp 参加者の興味の実態を表しているが、それと同時にこの返答はまだ具体的な興味あるテーマが決まっていないともとれるため camp 運営の難しさが表面化した。この議論の結果、前述の新たな 3 つの WG が立ち上がることとなった。

3. 個人的な目標に関する達成点

私は、現在は、SFC Incubation Village 研究コンソーシアム(SIV)(http://www.siv.ne.jp)の実働の責任者として、大学のシーズのインキュベーションスキーム作りに携わっている。このプロジェクトのそもそもの問題意識は私の興味は、インターネットの技術のビジネス化による deployment であり、大学のインターネット技術のビジネス化のために、SIV の活動をスタートした。

今回直接この分野に関する新しい知見を得ることはできなかったが、「Internet Business and Venture Start-ups」のワーキンググループを立ち上げて、その分野に興味のあるメンバーを募ったため、その活動の足場を作ることができた。APNG Camp を自分が日常的に携わっている活動の観点からどのように活用していくか、という視点が Camp への継続的なコミットには不可欠であり、そのためのステップとなった。